



歯医者さんが教える 歯と口腔の健康管理

〔第12回〕インプラントについて②

監修／歯学博士 鹿島 健司

前号ではインプラントの利点を中心にお話しましたが、インプラントに関する種々のトラブルも耳にするようになってきた現況を鑑み、今回はQ&A方式で偶発症や合併症等についても触れてみたいと思います。

1) インプラントは、いつから噛めるようになり、どのくらいもつのでしょうか？

インプラントが顎の骨にしっかり固着するには、埋め込む部位や骨の状態、年齢等によって多少異なりますが、通常は2～3か月かかり、その後に人工の歯冠を装着します。通常の歯科治療と同様、その後のメンテナンスを欠かしてはなりません。正しいブラッシングと定期検診によってかなりの難症例でも20年近く良好に維持されている方もたくさんいらっしゃいます（写真1）。



写真1 上顎のインプラント症例：骨が薄くて、埋込手術はとても難しかったですが、右上の奥歯に2本のインプラントは、すでに16年経過しています（インプラントの上部に見える黒い部分は上顎洞〔副鼻腔〕です）。

2) 費用はどのくらいかかるのでしょうか？

インプラントにかかる費用は、手術代・インプラント代・インプラントに被せる人工歯冠代の合計になります。インプラント治療は、健康保険は使えませんが、医療費控除の対象になります。治療する本数や部位により多少異なっているようですが、現在は1本25～40万円程度が多いようです。

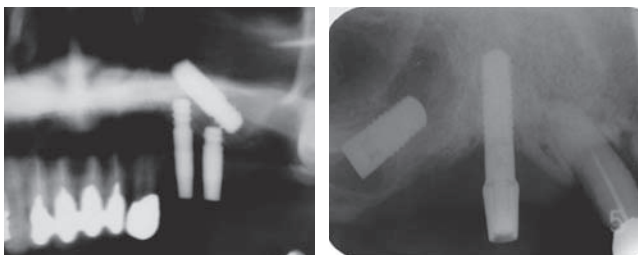


写真2、3 上顎の骨が薄くてインプラントが上顎洞に迷入してしまった症例。このような場合は、上顎洞から取り出さなければなりません。

3) インプラントって痛いですか？

インプラントは、抜歯の場合と同程度の手術が必要です。

監修／鹿島健司（歯学博士）。1958年1月3日生。かしま歯科医院院長。日本先進インプラント医療学会評議員・指導医・専門医

局所麻酔をしますので、通常は痛みを感じません。症例によっては、歯を抜くと同時にインプラントを埋め込むケースも可能で、その場合は骨にドリルで穴をあける必要がほとんどないので、負担が少ない手術となります。

4) 埋め込み手術をした場合、どのような症状が出る可能性がありますか？

私の場合は様々な症例写真等を見ていただき、さらに以下のような文章を作成して説明し患者さんに納得していただいています。

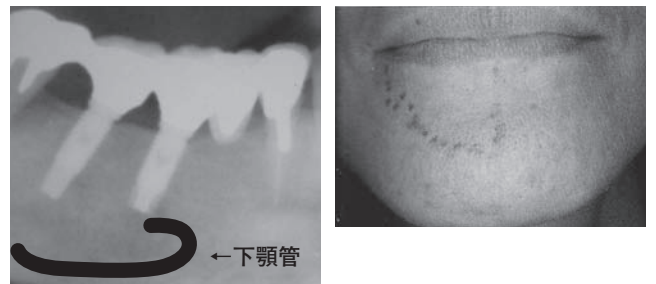


写真4 インプラントが下顎の神経に近接して、下唇とその下方の皮膚表面にしびれが生じてしまった症例です。

インプラント（人工歯根）を埋入される方へ

あごの骨にインプラントを埋入した場合、以下のような症状が出ることがあります。

- 1. 術後2～3日は、あごや頬、のどが腫れる可能性があります。4～5日で消退します。
- 2. 術後3～5日すると、頬の皮膚が紫色から黄色になることがあります。これは術中の内出血による着色で、1～2週間ほどで自然に消退します。
- 3. 埋入した日及びその後2～3日くらいに痛みが出ることがあります。その際は痛み止めを服用していただきます。
- 4. 下あごに埋入する場合、まれに手術した側の下くちびるや歯肉、舌に感覚以上や知覚鈍麻が生じることがあります。これは埋入したインプラントが、下あごの中を通っている神経に近接しているため、手術の刺激でしようじるものです。多くは短期間で軽快しますが、症状が長引く場合もあります。
- 5. インプラントの手術部位では腫まないようにしてください。
- 6. 術後7～8日で抜糸をおこないますが、引き続き同部では腫まないようにしてください。
- 7. 感染予防のために、抗生物質等の用法を守って服用してください。
- 8. その他

平成 年 月 日

署名 _____

<お詫びと訂正>平成24年4月号掲載の「インプラントについて①」の記事中、写真9（埋め込み直後の写真）の上下が反転していました。お詫びして訂正いたします。